胸腔鏡補助下（右・左）肺区域切除術を受けられる患者さんへ（No.1）　　**患者さん用**

患者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**様**　　**受持ち医師**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　**受持ち看護師**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月日 項目	入院～手術前々日 入院　月　日 月　日	手術前日 月　日（　）	手術当日（朝） 月　日（　）	手術当日（帰室後） 月　日（　）	術後1日目 月　日（　）	術後2日目 月　日（　）	術後3日目 月　日（　）	術後4日目 月　日（　）
達成目標	・入院生活に関して理解できる。 ・手術に関して理解ができる。 ・HCU入室時は必要物品が準備できる。		・合併症の症状、所見がない。 ・創痛のコントロールができる。 ・安静を守ることができる。		・ドレーンに問題がない。 ・創部に問題がない。 ・不安の表出ができる。 ・離床ができる。		・創部に問題がない。 ・不安の表出ができる。 ・感染の兆候がない。 ・リハビリに取り組むことができる。	
治療 処置	・ 手術に必要な物品をお預かりします。（HCU入室の場合、別紙をご参照下さい） 	・ 手術部位の除毛 （前胸部　わき　太もも） 必要時行います	・貴金属類は全て除去し 配布した血栓予防の靴下を着用します（着替える前に排尿を済ませて下さい） ・主治医が手術側の肩に印を書きに伺います	・手術側の胸にドレーンが入ります ・背中に鎮痛剤の細い管が入ります ・尿管が入ります ・酸素吸入を行います ・心電図を装着します ・必要に応じて管で痰を取ります ・血栓、梗塞予防の用具を両足に装着します（翌日には除去します）	←――― この時期に胸のドレーンが抜けます ―――→ ・ガーゼ交換は必要に応じて行います ・吸入を1日3回行います（4日間） 			
内服 点滴	・持参された薬の確認を行います	・手持ちのお薬を預かり看護師管理とします	・特殊薬のみ麻酔医の指示で内服します	・持続点滴を行います ・状態を見ながら鎮痛剤を使用します （注射または坐薬） ・背中の管より持続鎮痛剤を使用します	・鎮痛剤を配薬します ・医師の指示にて持参薬を再開します （ドレーンが抜けたら患者さん管理となります）			
呼吸 リハビリ		術前オリエンテーションを行います。 ・呼吸法の指示 ・術後の流れの説明			この時期に呼吸訓練があります（退院時まで）――→ ・腹式呼吸訓練 ――→ ・術後１日目起立、歩行訓練 ・術後2日目以降又はドレーン抜去後 院内歩行　自転車エルゴメーター　呼吸体操　階段昇降			
検　査	・ 血液、胸部写真 ・検温（1回／1日）		・手術に行く前に検温をします	・胸部写真（手術室） ・検温（夜中もあります）	胸部写真 ――→ ・血液検査　（検査は状態を見て行われます　前日にお知らせします） ・検温（4回／1日）――→			
活動 安静度	・フリー		・トイレ、洗面以外はできるだけ お部屋でお休み下さい	・ベッド上安静 手や足は動かせますが起き上がれません	・朝、夕は座位になり洗面を行います 状態を見ながら ・ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞで起立訓練→病棟内歩行→院内歩行 （医師または看護師と一緒に）			
栄養 食事	・ 普通食または特別食	・食事は夕食まで ・飲水は24時まで	・0時より絶食 ・7時より絶飲水	・絶飲食	・朝　絶食 ・昼　五分粥 ・夕　全粥	・朝より普通食または特別食		
清　潔	・入浴可	・除毛後(必要時)に 入浴、洗髪、爪切			・シャワー浴、入浴許可まで毎日、体を拭き着替えをします ・ドレーンが抜けた翌日からシャワー浴ができます			
排　泄	・トイレ歩行可	・トイレ歩行可			・排便はﾍﾞｯﾄ上またはﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙﾄｲﾚで行います ・状況をみながらトイレ歩行し、尿管を抜きます			
教育 指導 説明	・入院時の病棟内説明　・入院診療計画書説明 ・手術経過表の説明　・禁煙指導　・手術内容説明（主治医）　・手術に必要な物品の確認　・麻酔医の診察、説明　・手術室看護師訪問　・HCU入室時HCU看護師の訪問　・必要書類の確認		・注射、内服後は安静が必要です	・3F家族控えラウンジでお待ちいただき、終了後家族の代表者へ連絡します ・家族の方への手術結果説明	・麻酔医の術後訪問			

九州がんセンター呼吸器腫瘍科　2017年6月作成

胸腔鏡補助下（右・左）肺葉切除術を受けられる患者さんへ（№2）　　患者さん用

患者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様　　受持ち医師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　受持ち看護師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月日 項目	術後5日目 月　日（　）	術後6日目 月　日（　）	術後7日目 月　日（　）	術後8日目 月　日（　）	術後9日目 月　日（　）	術後10日目 月　日（　）	術後11日目 月　日（　）	術後12日目～退院 月　日（　）
達成目標	・創部、ドレーン抜去部に異常がない。 ・不安の表出ができる。 ・感染の兆候がない。 ・リハビリに取り組むことができる。			・創部、ドレーン抜去部に異常がない。 ・不安の表出ができる。 ・日常生活と退院後の生活の注意点について理解できる。				
治療 処置			・術創の抜糸	ドレーンを抜いてから1週間後に抜管部の抜糸 （退院後外来で行う場合もあります。創の管理については看護師が説明します） 退院おめでとうございます 				
内服 点滴	・患者さんにあった鎮痛剤の使い方へと徐々に変えていきます							
呼吸 リハビリ	→	→	・術創の抜糸が終えたらリハビリは終了です。（呼吸状態などによっては継続となる場合もありますので、その際はお知らせします）					
検査	・検温（1回／1日）→		・胸部ﾚﾝﾄｹﾞﾝ・採血 （検査は状態を見て行われます　前日にお知らせします）→					
活動 安制度	・院内フリー							
栄養 食事	・普通食または特別食							
清潔	→	→	→	・抜糸した翌日から浴槽につかることができます （入浴時の創の保護について看護師が説明します）				
排泄	・トイレ歩行可							
教育 指導 説明				・退院時指導 ・概算をお知らせします ・次回外来日の説明 				

※診療計画・入院期間については現時点での予定です。何か分からないことがあれば、いつでもお知らせください。

説明者サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　本人・家族への説明　＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

九州がんセンター呼吸器腫瘍科　2017年6月作成